

令和元年 7 月の解説（府県天気予報）

【7 月の天候状況】

月のはじめから下旬前半までは、梅雨前線やオホーツク海高気圧からの冷たく湿った気流の影響で曇りや雨の日が多かったため、北日本の日本海側と東日本の日本海側を除いて全国的に日照時間が少なくなりました。また、梅雨前線が本州の南岸付近に停滞することが多かったことや、18 日から 20 日にかけて東シナ海を北上した台風第 5 号、27 日に三重県に上陸した台風第 6 号の影響で、東日本太平洋側と西日本太平洋側の降水量はかなり多くなりました。気温は、月のはじめから下旬前半までは曇りや雨の日が多かったことから、東日本、西日本では月平均気温が低くなりました。月の終わりは、太平洋高気圧が強まり、全国的に晴れて気温が上がったため、多くの地点で真夏日となり、猛暑日となった所もありました。

上旬は、梅雨前線が日本の南海上から本州の南岸に停滞し、オホーツク海高気圧からの冷たく湿った気流の影響もあったため、北日本の日本海側で晴れの日が多かったほかは、全国的に曇りや雨の日が多く、沖縄・奄美や西日本太平洋側を中心に所々で大雨となりました。気温は、東日本と西日本では曇りや雨の日が多かったことや寒気の影響で低くなりました。

中旬は、梅雨前線が東日本や西日本付近に停滞する日が多く、オホーツク海高気圧からの湿った気流の影響を受けることが多くありました。また、18 日から 20 日にかけては台風第 5 号が東シナ海を北上しました。このため、北日本太平洋側から西日本にかけては曇りや雨の日が多く、20 日には長崎県の五島と対馬で大雨特別警報が発表されました。一方、北日本の日本海側では高気圧に覆われて晴れた日もあり、天気は数日の周期で変わりました。沖縄・奄美は高気圧に覆われて旬の中頃までは晴れた日が多くなりましたが、旬の終わりは台風第 5 号の影響で曇りや雨となりました。

下旬は、旬の中頃まで太平洋高気圧の本州付近への張り出しが弱く、湿った空気が流れ込みやすく、また台風第 6 号が 27 日に三重県に上陸し、その後に熱帯低気圧に変わって東日本を東進したため、近畿地方から東日本を中心に所々で大雨となりました。旬の終わりは、太平洋高気圧に覆われて全国的に晴れて気温が上がったため、多くの地点で真夏日となり、猛暑日となった所もありました。

【7 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)と同じ 80%で、明後日予報は例年値よりも 1 ポイント低い 75%でした。地方別の適中率では、明日予報は北海道、近畿、九州北部、九州南部の各地方で例年値を上回りました。明後日予報は、北海道、東北、中国、四国、九州北部、沖縄の各地方で例年値を上回りました。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3℃小さい 1.5℃で、九州南部と沖縄を除くすべての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2℃小さい 1.0℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【9 月の天気予報の利用にあたって】

9 月は、強い勢力の台風が日本に接近・上陸しやすい月です。また、日本付近に前線が停滞していると台風がまだ遠くにある頃から大雨となることもあります。これまでに大きな被害をもたらした台風の多くは、9 月に接近・上陸しています。台風が日本付近に接近・上陸すると予想されている場合には、最新の台風情報や警報・注意報など気象情報に十分留意して下さい。